



## 2025年8月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2025年7月15日  
東

上場会社名 株式会社トリプルアイズ 上場取引所  
 コード番号 5026 URL <https://www.3-ize.jp/>  
 代表者 (役職名) 代表取締役 (氏名) 山田 雄一郎  
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 (氏名) 近藤 一寛 (TEL) 03-3526-2201

配当支払開始予定日 —  
 決算補足説明資料作成の有無 : 有  
 決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・アナリスト・個人投資家向け)

(百万円未満切捨て)

## 1. 2025年8月期第3四半期の連結業績(2024年9月1日~2025年5月31日)

## (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		EBITDA		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年8月期第3四半期	4,253	40.2	258	48.7	△21	—	76	54.9	△328	—
2024年8月期第3四半期	3,033	74.8	173	—	19	—	49	—	42	—

(注) 包括利益 2025年8月期第3四半期 △328百万円( -%) 2024年8月期第3四半期 42百万円( -%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
2025年8月期第3四半期	円 銭 △39.53	円 銭 —
2024年8月期第3四半期	5.73	5.63

※EBITDA(経常利益+減価償却費+敷金償却+のれん償却額+支払利息)

(注) 2025年8月期第3四半期の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式は存在するものの、1株当たり四半期純損失であるため記載しておりません。

## (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
2025年8月期第3四半期	百万円 5,367	百万円 1,676	% 30.6
2024年8月期	4,918	850	17.3

(参考) 自己資本 2025年8月期第3四半期 1,644百万円 2024年8月期 850百万円

(注) 2025年8月期第3四半期連結会計期間において、企業結合に係る暫定的な会計処理の確定を行っており、2024年8月期に係る各数値については、暫定的な会計処理の確定の内容を反映させております。

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
2024年8月期	円 銭 —	円 銭 0.00	円 銭 —	円 銭 0.00	円 銭 0.00
2025年8月期	—	0.00	—	—	—
2025年8月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

## 3. 2025年8月期の連結業績予想(2024年9月1日~2025年8月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭	
通期	5,650	28.1	△83	—	3	△93.3	△375	—	△45.05	

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

(参考) EBITDA(経常利益+減価償却費+敷金償却+のれん償却額+支払利息) 2025年8月期(通期) 222百万円(△1.3%)

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更 : 無  
新規 一社(社名) 、除外 一社

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(注) 詳細は、添付資料11ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(会計方針の変更)」をご参照ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

2025年8月期3Q	8,384,100株	2024年8月期	7,456,300株
2025年8月期3Q	-株	2024年8月期	-株
2025年8月期3Q	8,310,414株	2024年8月期3Q	7,341,588株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数(四半期累計)

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー : 無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記載は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、記載された将来の計画数値、施策の実現を確約したり、保証するものではありません。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	6
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	7
(1) 四半期連結貸借対照表	7
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	9
四半期連結損益計算書	9
第3四半期連結累計期間	9
四半期連結包括利益計算書	10
第3四半期連結累計期間	10
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	11
(継続企業の前提に関する注記)	11
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	11
(会計方針の変更)	11
(セグメント情報等の注記)	12
(企業結合等関係)	13
(キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	13
(重要な後発事象)	13

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

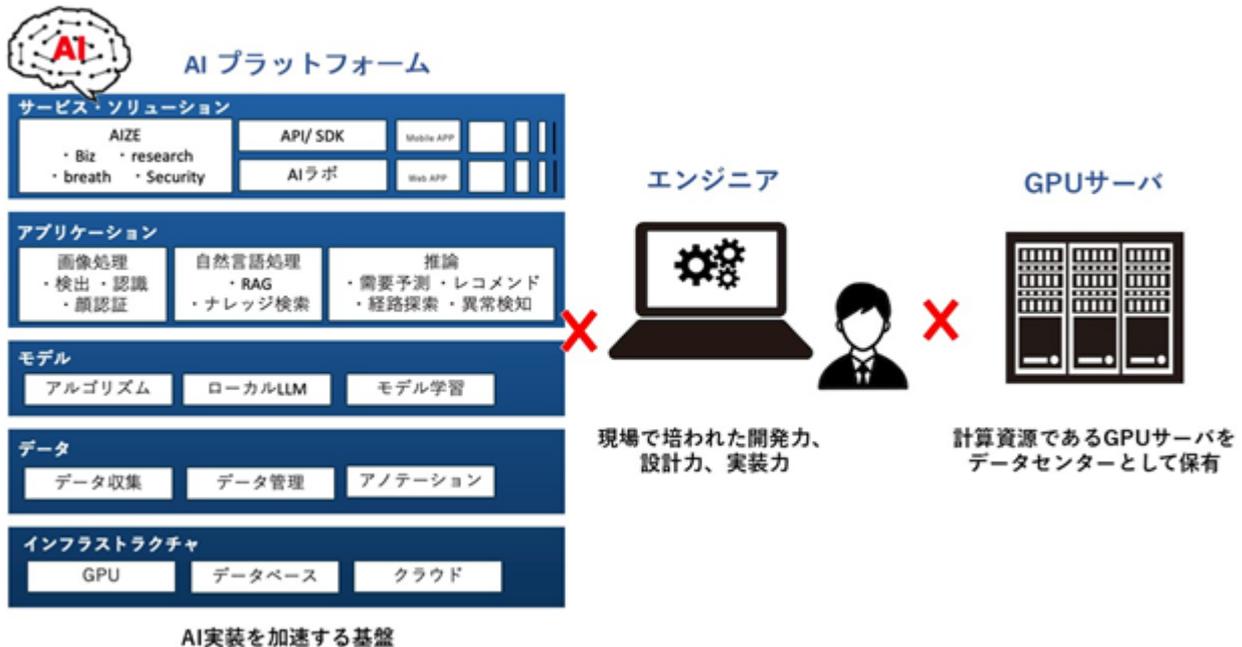
当第3四半期連結累計期間における我が国経済は、足元の景気が底堅く推移していることから、雇用・所得環境に改善の動きが見られました。アメリカの政権交代による為替リスクを孕みつつも、生成AI及び生成AI向け半導体への大型投資が加速している点の特筆され、各企業では中長期視点から、特にAIを中心としたデジタル投資への意欲が依然として高い状態にあります。

当社グループの属する業界においては、2020年代に入り各企業のデジタルトランスフォーメーション(DX)関連投資は増加傾向を強めております。2022年以降は、これまでDXが進んでいなかった業種、業界からも生成AIに対する関心が非常に高まっており、導入と定着は拡大一方であるものと見込んでおります。世界経済を牽引する技術として注目を浴びる生成AIですが、そのインフラであるGPUサーバー及び半導体に対する需要も世界的に高まっており、これまでにない大型投資プロジェクトが国内外で進行中です。

一方、直近の米国による関税強化が世界経済に与える影響は計り知れず、慎重かつ柔軟に対応していく必要を深く認識しております。当社としては自動車設計に係る事業が直接的な影響を受ける可能性があります。足元は開発人材ニーズが強く、業績は好調に進んでいくと想定しますが、中長期的な自動車生産台数に波及する可能性については注視してまいります。そのような中、当社グループは、「テクノロジーに想像力を載せる」という経営理念の下、人にやさしいICTサービスの提供を目指し、当社グループ独自のテクノロジーで新たな時代への橋渡しとなるイノベーションを追求し、AIの社会実装を実現していきます。

#### <当社グループの優位性>

当社は、AI実装を加速する基盤として独自開発のAIプラットフォームを保有し、これに加え、現場で培われた開発力、設計力、実装力や、計算資源であるGPUサーバーをデータセンターとして保有すること、これらの3つを掛け合わせていることを強みとしております。



#### <当社グループ戦略>

当社グループはAI社会実装の実現のため、2023年9月にゼロフィールドのグループインにより広範なGPUサーバー活用で、よりAIテクノロジーの実装を推進できる体制となっております。さらにレガシー産業のAI実装を加速させる目的で、2024年7月に大手自動車メーカーを主として設計技術に強みを持つBEXのグループインにより、AIを活用した次世代の自動車設計技術の革新にも取り組んでいます。グループとして固有の優位性を掛け合わせ、”現場“を変えることができる唯一無二のAIベンチャーとして、AI社会実装の実現の確度を高めていきます。

当社グループは、3つのAI実装戦略と、M&Aや資本業務提携の推進により独自性を発揮してまいります。

① AIプラットフォームの展開

- ・世界大会有数の実績を誇る囲碁AIの研究開発から生まれた10万IDの運用実績があり、自社AIプロダクトとしてはトップクラスの運用実績（例：世田谷区非常勤勤怠管理システムに当社プロダクトが採用）
- ・当社のシステム開発力を活かし、他社SaaSサービスと連携し、他社勤怠管理システムへバンドル提供、レベニューシェアで拡大（例：LINE WORKS様、Teamspirit様、ASPIT様など）
- ・AI自社プロダクトは月額利用料(MRR)が高粗利で長期継続
- ・AIラボサービス及びオーダーメイドAI開発リード顧客からの大型システム開発受注、基幹システム開発受注

② レガシー産業へのAI実装

- ・AI実装は黎明期であり、各業種業界へのアプローチ(横展開)
- ・直近のM&Aではトヨタグループ各社との顧客網を築く株式会社BEXがグループインシ、自動車業界(設計、製造)のAI実装を推進
- ・遊技業界プリペイドカードシステム最大手のゲームカード・ジョイコホールディングス社との資本業務提携も実施し、遊技業界のAIによるデジタル化を推進
- ・上記以外においても、レガシー産業にリーチするリーディングプレイヤーとのM&Aや資本業務提携をテコに当該産業へのAI実装
- ・イノテック社と共同開発したエッジAIプロダクトによるAI需要の取り込み

③ GPUサーバーセグメントの推進

- ・独自開発したソフトウェアを搭載した暗号資産マイニング用途及びAI開発用途GPUサーバーマシン、モジュール型/コンテナ型のデータセンターの販売
- ・大量電力消費時代における電力発電事業者や土地保有者との余剰電力等の活用推進
- ・電力料金の低くクリーンエネルギー活用可能な海外データセンターの拡張
- ・暗号資産マイニング事業経験を生かした暗号資産トレジャリー事業の支援

これら3つの戦略をさらに推進するため、当社と同規模以上のM&Aを実施し、また、M&A後のベクトル合わせのためのファウンダーへの第三者割当増資も組み合わせていきます。

これらの結果、当第3四半期連結累計期間の経営成績は、売上高は4,253,594千円(前年同期比40.2%増)、営業損失は21,942千円(前年同期は営業利益19,714千円)、経常利益は76,532千円(前年同期比54.9%増)、親会社株主に帰属する四半期純損失は328,482千円(前年同期は親会社株主に帰属する四半期純利益42,071千円)となりました。

セグメント別の経営成績は、次のとおりであります。

(AIソリューション事業)

当セグメントは、AI/システム開発を行うAIインテグレーション、AI搭載の自社プロダクトサービスを行うAIプロダクト、自動車設計を行うエンジニアリングの3つのサブセグメントにより構成されています。

- ・AIインテグレーションに関しては、商流改善や単価上昇による社員平均粗利額の増加、BP粗利率が改善しました。また、2024年9月に遊技業界へAI技術を利用したソリューションを提供することを目的に資本業務提携したゲームカード・ジョイコホールディングス社より、DX/AI案件開発/保守業務を受注し、業務提携が進行中であります。さらに、生成AI関連の開発需要増に伴い、AI導入を要件定義からサポートする月額制のAI開発サービス「AIラボ」が、引き続き安定的に受注を拡大しており、これまでDXで出遅れていた建設・製造・飲食業界を中心に広がっております。AIラボ案件をフックにAI請負案件も増加しており、当社AI技術へのニーズは高く、RAG開発、行動分析AIなど幅広く対応しているのが特徴です。
- ・AIプロダクトに関しては、顔認証ログインアルコールチェックサービスAIZE Breathの大手物流会社への導入が開始し、ユーザー企業が拡大しております。また、LINE WORKS上のアプリであるAI顔認証ログインクラウド型勤怠打刻サービス「きんろく for LINE WORKS」の販売を開始し、アプリディレクトリ登録が完了したことで、一層の販売拡大に努めております。さらに、他社人事労務管理システムとの顔認証打刻新規API連携を開始し、プロダクト売上は堅調に推移しました。
- ・エンジニアリングに関しては、自動車業界全体の生産台数は好調に推移しており、新車/新技術の開発意欲も

旺盛で、トヨタグループとの取引は高稼働率を維持しておりますが、米国の関税強化の影響については、開発人材ニーズが強いものの、本事業への影響は注視が必要です。また、高稼働率を維持し、単価は向上しているものの、5月に臨時賞与32百万円を支給し、また、人数減が当初の想定を上回ったため、当第3四半期連結会計期間以降利益水準が低下しております。当社と共同で自動車設計業務効率化のためのAIソフト開発のプロジェクトチームを組成し、複数の設計効率化ソフトを試作開発中であります。グループ全体として顧客層の拡大や多様なキャリアの提示によるエンジニア採用力の強化等、事業上のシナジー効果による更なる成長が見込まれます。

販管費は、「AIインテグレーション」において当第3四半期連結会計期間で新卒入社による社員増及び「エンジニアリング」における上記臨時賞与の影響で、対第2四半期連結会計期間との比較で約26百万円増加いたしました。

その結果、当第3四半期連結累計期間において、売上高は3,443,830千円（前年同期比68.0%増）となり、セグメント利益は34,732千円（前年同期比10.2%減）、EBITDAは107,579千円となりました。

#### (GPUサーバー事業)

グループ会社である株式会社ゼロフィールドは、GPUサーバー事業を担っておりますが、マイニングマシンの販売台数・顧客数・自社データセンター稼働顧客数において、4年連続で国内No.1（東京商工リサーチ調べ）を達成しました。生成AIを開発するITベンダーやAI開発者向けに特化したGPUサーバーである「GPU Server for AI」及びデータセンターに関する研究開発を拡大しており、データセンターではコンテナ型データセンターの販売に向けて、AI企業や計算力販売会社との提携に向けて、研究開発の実施や実証実験の準備を進めており、販売強化に向け、専用LPを公開いたしました。クラウドサービス上に情報保存することにリスクを感じている企業や公的セクターに対して、機密データをローカルで処理し管理するシステムや当社従来のクラウドプラットフォームを活用することにより柔軟性の高いハイブリッドクラウドシステムも提供しております。当社のAIシステムと株式会社ゼロフィールドのGPUサーバーを併用することで、さらに競争優位性のあるサービスを実現していきます。また、株式会社マックハウスとの暗号資産事業における包括的協業を締結し、暗号資産トレジャリー事業の支援を開始しました。今後は、データセンター向けのAI開発用途GPUマシン及びASICを用いた暗号資産マイニングマシンの販売、暗号資産トレジャリー事業支援に注力いたします。

当第3四半期連結会計期間においては、節税ニーズの需要拡大により3月に大きく営業利益を計上したことから、営業利益は52百万円改善したものの、当第3四半期連結累計期間では営業損失で着地しております。一方で、第2四半期連結会計期間に保険解約返戻金56百万円を計上したこと、また、当第3四半期連結会計期間は暗号資産相場が堅調に推移したことから、当第3四半期連結累計期間の経常損益は黒字転換いたしました。

その結果、当第3四半期連結累計期間において、売上高は818,763千円（前年同期比19.2%減）となり、セグメント利益は41,799千円（前年同期比289.2%増）、EBITDAは150,648千円となりました。

## (2) 財政状態に関する説明

### ① 資産、負債及び純資産の状況

当第3四半期連結会計期間末における資産の合計は、5,367,492千円と前連結会計年度末と比較して449,325千円増加しております。

流動資産は3,513,075千円（前期末比484,870千円増）となり、主な要因としては、現金及び預金が830,082千円増加したことおよび商品及び製品が292,586千円減少したこととあります。

固定資産は1,854,417千円（前期末比35,544千円減）となり、主な要因としては、長期貸付金が111,438千円、ソフトウェアが38,924千円それぞれ増加したことおよび建設仮勘定が14,998千円、のれんが71,464千円、顧客関連資産が24,611千円、投資有価証券が9,453千円、敷金及び保証金が16,675千円、繰延税金資産が38,919千円それぞれ減少したこととあります。

当第3四半期連結会計期間末における負債の合計は、3,690,553千円と前連結会計年度末と比較して376,958千円減少しております。

流動負債は2,221,213千円（前期末比125,305千円減）となり、主な要因としては、未払金が32,568千円、賞与引当金が32,070千円それぞれ増加したことおよび短期借入金30,000千円、1年内返済予定の長期借入金が

23,658千円、契約負債が60,652千円それぞれ減少したことであります。

固定負債は1,469,339千円（前期末比251,653千円減）となり、主な要因としては、繰延税金負債が30,869千円増加したことおよび長期借入金が276,707千円、社債が10,000千円それぞれ減少したことであります。

当第3四半期連結会計期間末における純資産は、1,676,939千円と前連結会計年度末と比較して826,283千円増加し、純資産比率が17.3%（前連結会計年度末）から31.2%（当第3四半期連結会計期間末）となり財務状況が改善しております。主な要因としては、2024年10月に完了した株式会社ゲームカード・ジョイコホールディングスへの第三者割当増資等により1,121,453千円増加した一方で、親会社株主に帰属する四半期純損失の計上により328,482千円減少したことであります。

なお、2024年7月1日に行われた株式会社BEXとの企業結合について、前連結会計年度において暫定的な会計処理を行っていましたが、当第3四半期連結会計期間に確定しております。当該暫定的な会計処理の確定に伴い、当第3四半期連結累計期間の四半期連結財務諸表に含まれる比較情報において取得原価の配分の見直しが反映されており、前連結会計年度末との比較・分析にあたっては、暫定的な会計処理の確定による取得原価の当初配分額の見直しが反映された後の金額を用いております。

### (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

通期の業績予想につきましては、前回予想(2024年10月15日発表)から以下の理由により修正を行っております。

当第3四半期連結累計期間の営業損益は、計画値111百万円に対して△21百万円と推移しており、第4四半期連結会計期間に、AIソリューション事業のエンジニアリングサブセグメントにおいて、単価の上昇を人員数の減少が当初想定を上回ること、同事業のAIインテグレーションサブセグメントにおいて人員確保目的の臨時昇給を当第3四半期連結会計期間に実施したこと、GPUサーバー事業において令和7年度税制改正の影響によりGPUマイニングマシンの需要が減少し、また、AI開発用途GPUマシンの新商品開発に向けた研究開発費用の増加を見込んでいたため、業績予想の修正を行いました。これに伴い、経常利益につきましても修正を行っております。

さらに、当第3四半期連結会計期間に、GPUサーバー事業において、上述の税制改正により、GPUを用いた暗号資産マイニングマシンの販売が低迷したことに伴い、当該GPUマシンの販売を終了し、棚卸資産評価損278百万円を計上しました。AIソリューション事業、GPUサーバー事業の直近動向を踏まえた当期連結業績予想の修正に合わせて、通算グループにおける将来の課税所得の見直しを行い、繰延税金資産の回収可能性を検討した結果、法人税等調整額69百万円を計上しました。これらに伴い、親会社株主に帰属する当期純利益の予算修正を行っております。

なお、今後の見通しにつきましては、発表日現在において入手可能な情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。連結業績予想につきましては、業績予想の修正が必要になった場合は、速やかにお知らせいたします。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2024年8月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2025年5月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,613,923	2,444,005
売掛金	625,743	616,022
契約資産	87,759	35,535
商品及び製品	457,620	165,034
原材料及び貯蔵品	12,517	6,162
その他	237,462	255,347
貸倒引当金	△6,821	△9,033
流動資産合計	3,028,204	3,513,075
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	269,803	271,476
車両運搬具（純額）	0	-
土地	84,691	84,691
建設仮勘定	27,125	12,126
その他（純額）	38,491	40,417
有形固定資産合計	420,110	408,711
無形固定資産		
のれん	645,410	573,945
ソフトウェア	43,988	82,913
顧客関連資産	417,138	392,527
その他	1,490	1,266
無形固定資産合計	1,108,027	1,050,653
投資その他の資産		
投資有価証券	10,201	747
関係会社株式	4,388	4,388
長期貸付金	107,333	218,771
敷金及び保証金	100,222	83,547
繰延税金資産	173,037	134,117
その他	73,894	60,734
貸倒引当金	△107,253	△107,253
投資その他の資産合計	361,824	395,052
固定資産合計	1,889,962	1,854,417
資産合計	4,918,167	5,367,492

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2024年8月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2025年5月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	120,389	108,519
1年内償還予定の社債	10,000	10,000
短期借入金	490,000	460,000
1年内返済予定の長期借入金	394,764	371,106
未払金	274,290	306,859
未払法人税等	32,611	46,800
契約負債	619,224	558,571
賞与引当金	138,269	170,339
受注損失引当金	12	9
その他	266,956	189,007
流動負債合計	2,346,519	2,221,213
固定負債		
社債	40,000	30,000
長期借入金	1,390,721	1,114,014
繰延税金負債	-	30,869
退職給付に係る負債	283,754	287,895
資産除去債務	6,517	6,559
固定負債合計	1,720,992	1,469,339
負債合計	4,067,511	3,690,553
純資産の部		
株主資本		
資本金	56,922	20,075
新株式申込証拠金	128,173	-
資本剰余金	1,647,001	2,031,140
利益剰余金	△981,048	△407,195
株主資本合計	851,048	1,644,019
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△393	-
その他の包括利益累計額合計	△393	-
新株予約権	-	32,919
純資産合計	850,655	1,676,939
負債純資産合計	4,918,167	5,367,492

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2023年9月1日 至 2024年5月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2024年9月1日 至 2025年5月31日)
売上高	3,033,638	4,253,594
売上原価	2,004,677	2,896,412
売上総利益	1,028,961	1,357,181
販売費及び一般管理費	1,009,246	1,379,123
営業利益又は営業損失(△)	19,714	△21,942
営業外収益		
受取利息	1,481	1,575
為替差益	3,026	-
デリバティブ評価益	1,884	-
暗号資産評価益	16,996	33,597
暗号資産売却益	-	11,976
助成金収入	4,231	5,144
補助金収入	20,000	15,993
保険解約返戻金	-	56,836
その他	1,581	5,364
営業外収益合計	49,202	130,488
営業外費用		
支払利息	16,061	22,189
社債発行費	1,129	-
株式交付費	1,322	6,420
支払手数料	123	123
その他	863	3,279
営業外費用合計	19,500	32,013
経常利益	49,416	76,532
特別利益		
固定資産売却益	1,175	1,295
特別利益合計	1,175	1,295
特別損失		
固定資産除却損	6,040	2
減損損失	-	338
投資有価証券評価損	8,847	9,847
棚卸資産評価損	-	278,566
特別損失合計	14,888	288,753
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	35,702	△210,925
法人税、住民税及び事業税	15,317	47,767
法人税等調整額	△20,202	69,789
過年度法人税等	△1,483	-
法人税等合計	△6,368	117,556
四半期純利益又は四半期純損失(△)	42,071	△328,482
非支配株主に帰属する四半期純利益	-	-
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	42,071	△328,482

四半期連結包括利益計算書  
第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2023年9月1日 至 2024年5月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2024年9月1日 至 2025年5月31日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	42,071	△328,482
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	256	393
その他の包括利益合計	256	393
四半期包括利益	42,327	△328,089
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	42,327	△328,089
非支配株主に係る四半期包括利益	-	-

## (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業的前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、2024年9月2日を払込期日として、一般社団法人恵那会及び井口邦氏から第三者割当増資の払込みを受けたため、資本金及び資本剰余金がそれぞれ256,346千円増加しております。また、2024年10月9日を払込期日として、株式会社ゲームカード・ジョイコホールディングスから第三者割当増資の払込みを受けたため、資本金及び資本剰余金がそれぞれ358,400千円増加しております。

一方で、2024年11月28日開催の第16回定時株主総会において資本金及び資本準備金の額の減少を行うことを決議し、2025年1月15日付で資本金を661,660千円、資本準備金を1,441,710千円それぞれ減少し、その他資本剰余金に振り替えております。また、同定時株主総会において剰余金の処分を行うことを決議し、その他資本剰余金を902,335千円減少させ、同額を繰越利益剰余金に振り替えることにより、欠損填補を行っております。

また、新株予約権の行使により、当第3四半期連結累計期間において資本金及び資本剰余金がそれぞれ10,067千円増加しております。

この結果、当第3四半期連結会計期間末において資本金が20,075千円、資本剰余金が2,031,140千円となっております。

(会計方針の変更)

〔「法人税、住民税及び事業税等に関する会計基準」等の適用〕

「法人税、住民税及び事業税等に関する会計基準」（企業会計基準第27号 2022年10月28日。以下「2022年改正会計基準」という。）等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しております。

法人税等の計上区分（その他の包括利益に対する課税）に関する改正については、2022年改正会計基準第20-3項ただし書きに定める経過的な取扱い及び「税効果会計に係る会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第28号 2022年10月28日。以下「2022年改正適用指針」という。）第65-2項(2)ただし書きに定める経過的な取扱いに従っております。なお、当該会計方針の変更による四半期連結財務諸表への影響はありません。

また、連結会社間における子会社株式等の売却に伴い生じた売却損益を税務上繰り延べる場合の連結財務諸表における取扱いの見直しに関連する改正については、2022年改正適用指針を第1四半期連結会計期間の期首から適用しております。当該会計方針の変更は、遡及適用され、前年四半期及び前連結会計年度については遡及適用後の四半期連結財務諸表及び連結財務諸表となっております。なお、当該会計方針の変更による前年四半期の四半期連結財務諸表及び前連結会計年度の連結財務諸表への影響はありません。

(セグメント情報等の注記)

## 【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自 2023年9月1日 至 2024年5月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 2
	AIソリューション 事業	GPUサーバー事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	2,019,778	1,013,860	3,033,638	—	3,033,638
セグメント間の内部 売上高又は振替高	29,700	—	29,700	△29,700	—
計	2,049,478	1,013,860	3,063,338	△29,700	3,033,638
セグメント利益	38,678	10,740	49,418	△2	49,416

(注) 1. 調整額は、セグメント間取引消去であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。

当第3四半期連結累計期間(自 2024年9月1日 至 2025年5月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 2
	AIソリューション 事業	GPUサーバー事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	3,434,830	818,763	4,253,594	—	4,253,594
セグメント間の内部 売上高又は振替高	9,000	—	9,000	△9,000	—
計	3,443,830	818,763	4,262,594	△9,000	4,253,594
セグメント利益	34,732	41,799	76,532	—	76,532

(注) 1. 調整額は、セグメント間取引消去であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントの変更等に関する事項

表示方法の変更により、従来、営業外収益に計上しておりました「経営指導料収入」等を当第1四半期連結会計期間より、売上高に計上する方法に変更しております。

なお、前第3四半期連結累計期間のセグメント情報については、変更後の計上方法により作成したものを記載しております。

## 3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

2024年7月1日に行われた株式会社BEXとの企業結合について前連結会計年度において暫定的な会計処理を行っていましたが、当第3四半期連結会計期間において確定しております。これにより「AIソリューション事業」におけるのれんが減少しております。

詳細につきましては、「注記事項(企業結合等関係)」をご参照ください。

## (企業結合等関係)

## (企業結合に係る暫定的な処理の確定)

2024年7月1日に行われた株式会社BEXとの企業結合について、前連結会計年度において暫定的な会計処理を行っていましたが、当第3四半期連結会計期間に確定しております。

この暫定的な会計処理の確定に伴い、当第3四半期連結累計期間の四半期連結財務諸表に含まれる比較情報において取得原価の当初配分額の見直しが反映されており、企業結合日における識別可能な資産及び負債の特定並びに時価の算定が完了したため、のれんとして計上していた金額の一部を組み替えております。

この結果、暫定的に算定されたのれんの金額204,941千円は、会計処理の確定により98,285千円減少し、106,655千円となっております。

また、前連結会計年度末ののれんは96,647千円、繰延税金資産は49,230千円それぞれ減少し、顧客関連資産は146,605千円、利益剰余金は728千円それぞれ増加しております。

なお、前第3四半期連結累計期間の四半期連結損益計算書へ与える影響はありません。

## (キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2023年9月1日 至 2024年5月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2024年9月1日 至 2025年5月31日)
減価償却費	37,877 千円	76,659 千円
のれんの償却額	69,423 "	76,464 "

## (重要な後発事象)

該当事項はありません。